

建学の精神 自然豊かな環境の中で、誠実にして、豊かな情操をもち、しかも実力ある人を育てる

学校教育目標		本年度の重点目標			
1. 不登校生徒や進路変更した生徒を支援し、生徒の登校状況や発達段階に対応したきめ細やかな教育を授けることにより、自発的に将来を見つめ、卒業後の進路を発見できる学校 2. 南木曾町が誇る様々な伝統技能体験、妻籠宿の町並み、様々な文化財から信州学を学び、理解し、それらを大切にできる心を育む教育ができる学校 3. 南木曾町ならではの豊かな自然環境に触れ合い、ブッシュクラフト(アウトドア・防災技術)を学ぶことで自然を体感し、共生できる力を育む教育ができる学校 4. キャリア教育につながるコンピュータ・調理・ファッションに関わる技術習得や資格取得を、助手として兼任する専門学校教員が実習指導することで技術教育を学ぶことができる学校 5. 等身大投影(AR技術)による双方向遠隔授業を取り入れ、本校と各サテライト校を結ぶことで、面接指導と同等な学習環境を常に提供できる学校		1. 新設校として開校年度に当たり、学校組織と学校運営の確立と充実、および施設設備の拡充整備に重点を置く。 2. 新設の通信制高校として、長野・岐阜・愛知の各県において広報活動に努め、認知度を高める取り組みに力を注ぐとともに、さまざまな面での地域連携を進める。 3. 在学生と新入生に適切な指導に努め、生徒一人一人を大切にできる面倒見の良い教育の実践を推進する。 4. 次年度以降の生徒増と技能連携の本格実施に備え、必要な施策と準備を行う。			
評価基準 : A…ほぼ達成 B…概ね達成 C…やや不十分 D…不十分					
対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	次年度への改善策
学習指導	① 基礎基本学習の定着及びマナーの教授	・各教科指導において、基礎・基本を定着することができたか。 ・生徒の向学心を育成し向上することができたか。	・生徒授業評価が概ね良好であり、基礎基本の定着が進んでいる。 ・生徒の差は見られるが大多数の生徒は前向きに学習に取り組んだ。 ・追試験やレポート再提出となった生徒も少数いた。	B	・生徒の理解度に応じた時間配分を心がけ基礎力定着に重点を置く。 ・教科科目に関心を持ち自ら探求したいと思えるような授業を工夫するとともにレポートの計画的な支援をする。
	② 学習指導方針である「面倒見の良さ」の実現	・生徒の実態に基づいて、学習資料や指導方法の改善を図り、「わかる授業」「できる授業」になるよう工夫したか。 ・生徒自らが意欲的に学習に取り組むような授業を展開することができたか。	・生徒からは授業が工夫されわかりやすいとの感想が多い。 ・生徒の実情に合わせた授業や個々へのきめ細かい指導では改善の余地がある。 ・AR授業では生徒状況がつかみにくく、生徒の考えや意見を相互発信できる学習展開が困難だった。 ・一方では双方向性を使い質問や意見を聞きながら進める科目もあった。	B	・AR授業でも可能な限り生徒をよく観察し、内容やレポートにより工夫を凝らすとともに、補助教員によるサポートを積極的に行う。 ・適切な声掛けや質問、雰囲気づくりに努め、ワークシートなどを用意回収するなどして生徒の学習理解度を測る取り組みを進める。
	③ 生徒の実情に合わせた学習支援とAR授業および職員研修	・法定回数以上の面接授業を実施し、AR授業や多様なメディアを活用したわかりやすく充実した授業ができたか。 ・適切なレポート問題の作成およびいいね添削指導ができたか。 ・学習理解度を十分上げるため、スクーリング以外での補習授業や学習支援ができたか。 ・必要な職員研修が実施できたか。	・スクーリング、レポート等計画通り実施できた。 ・AR教室操作には当初不慣れな面もあったが慣れるにつれて概ね安定した運営ができるようになったが、習熟には課題が残った。 ・生徒の状況に応じて補充授業や特別授業を実施し成果を上げたが受身な生徒も見られた。 ・AR設備を活用した授業は一部ではできるようになったがコロナ禍のため職員研修はできなかった。	B	・レポート内容は学校として適切な水準を保つよう、質の確保とともに探究的な部分を強化していく。 ・教科によるレポート難易度のバラつきについて、すり合わせを進める。 ・AR授業設備を全教職員が使いこなせるようにする。 ・電子黒板ボードや視聴覚施設を活用した効果的なAR授業についての職員研修会を実施する。
	④ 単位認定までの学習指導	・科目担当者は学習評価、補習授業や学習支援の適切な指導ができたか。 ・出欠管理やレポート提出の確実な管理が適切にできたか。 ・各校の担当は学習環境を整え、生徒への助言及び保護者への適切な連絡ができたか。	・前向きな姿勢を持つ生徒が多く授業やレポート指導が適切にできた。 ・申請科目はほとんどの生徒が単位修得できた。 ・出欠やレポート提出状況の確認および生徒保護者への連絡は各校で適切に実施できた。	A	・今年度の方針を継続し適切な指導に努める。 ・スクーリングのAR映像、音声の調整など生徒がわかりやすく受けやすい環境を整える。 ・出欠管理、レポート管理などサテライト教員と科目担当の情報共有を徹底する。
生徒指導	① 生徒適性に合わせ、社会人基礎力とマナーを高める指導	・社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を涵養育成できたか。 ・生徒の社会進出を見据えた社会常識の教授ができたか。	・ガイダンスや日常のなかで生徒との触れ合いに努めてきた。 ・全体として生徒間の交流機会は少なかったが、サテライト校の構造により生徒との距離や生徒間交流に差が出た。 ・人とかかわりが苦手だったり時間管理の緩い生徒もみられた。 ・社会人基礎力の意識付けやチームで協力して働く力の育成が課題である。	B	・社会常識を定着できるように指導していく。 ・総合的な探求の時間や特別活動を活用し、社会人基礎力の育成や進路への意識向上に努める。
	② 登校が難しい生徒への支援	・通信機器等を使用した適切な遠隔学習支援を行うことができたか。 ・必要に応じて最終学期(V期)の特別集中スクーリング期間を設けて単位修得指導ができたか。	・コロナ禍により4月～5月はZOOM利用の授業を実施、大きな問題がなく実施できた。 ・生徒は欠席が少なく欠席者に対するメディア授業も適切にできたが、機器の不具合で授業録画ができない事例もあった。 ・必要な生徒については当該期で補習などの支援ができた。	A	・今年度はコロナの影響もあり補習を何回か実施できたが、次年度は授業内で支援できるようにしていく必要がある。
	③ 家庭保護者との連携	・生徒の状況を的確に把握し、保護者との適切な連絡が取れているか。 ・計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活を送れるように支援しているか。	・随時生徒や保護者との連絡を実施し、学校を理解してもらえるように努めた。 ・行事時の適切な連絡に心がけ、生徒保護者への支援と連携は十分に取れていた。 ・来年度生徒が大幅に増えた場合の対応が課題である。	A	・生徒観察、懇談および保護者との連携を職員全体で強化していく。 ・不登校傾向の生徒には三者懇談やカウンセリングなどの対応を充実する。 ・次年度はe-pa(メール連絡網)を導入して効果的な運用をすすめ、学校の連絡が随時確実に届くと期待される。
進路・保健指導	① 進路指導とキャリア教育の推進	・生徒個々の進路目標実現に向けて適切な支援と助言ができたか。 ・ハローワークなどの外部組織と連携した進路指導の推進ができたか。 ・卒業後を見据えたキャリア教育を推進し、生徒の進路選択の助けとなったか。	・積極的にハローワークを訪し、次年度以降の進路指導の足掛かりを確保した。 ・アルバイトする生徒もおり、職業体験を通じたキャリア教育を進めていきたい。 ・生徒が卒業後をイメージできるよう、自立を念頭に適切な声掛けができた。	B	・キャリア教育指導の時間を計画的に導入していく。 ・2年目の生徒に対しては具体的な進学先や業種など進路決定に向けた指導を進める。
	② 技能連携教育の準備と推進	・来年度から本格実施となる技能連携教育の準備を関係機関とすすめ、円滑な実施を図ることができたか。 ・技能連携についての生徒と保護者への理解と協力を進めることができたか。	・来年度からの技能連携にむけて連携協議会を設置し円滑な実施の準備をおこなった。 ・高等課程所属生徒の転入手続きも順調に進めることができた。 ・今年度は専門基礎科目を受講する生徒が数名いた。	A	・技能連携の本格実施を円滑に進める。 ・生徒には専門基礎科目の受講を勧めライセンスコースへの興味意欲をわかせたい。
	③ 健康の保持増進及び新型コロナウイルスへの対応	・養護教諭やスクールカウンセラーと連携し、生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を養うことができたか。 ・新型コロナウイルスに対して、適切で効果的な感染症対策ができたか。	・養護教諭が各校巡回する体制が確立し適切な保健指導ができた。 ・入学時に全員に養護教諭によるカウンセリングを行うことができた。 ・新型コロナへは迅速に対応し、職員と生徒への注意を徹底し感染を予防した。 ・一部生徒からは相談しにくいとの意見も聞かれた。	B	・今年度の指導体制を継続充実する。 ・養護教諭の来校予定を生徒に周知するなど保健室を利用しやすくする。 ・スクールカウンセラーの適切な活用をすすめる。
学校運営	① 学校組織と学校運営の確立と充実	・新設校として必要な職員組織の整備と各種規定規則の設定が適切に行われ、学校運営が順調に進められたか。 ・生徒募集推進のため、学校説明会や広報活動が効果的に実施できたか。 ・入学者、転編入学者に対し、本人及び保護者、前籍校への適切な対応ができたか。	・本校グループ生徒数は4月当初の2人から2月末は14人まで増加した。 ・学校説明会や地区別入試説明会に積極的に参加し周知理解を進めたが、十分とは言えない状態である。 ・学校説明会への参加が限定的であり、日程や広報など各地域に合わせた計画設定が必要。 ・職員組織面で改善の余地がある。	B	・関係中学校や高校との連携を適切におこない、前籍校への対応を心がける。 ・新年度は20名前後の出発となるので生徒保護者への対応に力を入れる。 ・中学卒の新入生と転編入学生への対応を配慮する必要がある。 ・来年度に向けて数名の職員を採用し万全を期す。
	② 新設校としての施設設備の拡充整備	・施設設備の充実拡充・補修点検をおこない安全管理に努めるとともに、校舎の環境整備を進める。	・新設校として随時設備等の拡充につとめ充実させることができたが、まだ改善の余地がある。 ・本校では用務員が採用でき、環境整備と学習施設の整備が進んだ。	A	・生徒にとって居心地の良い場所と感じられるように環境整備を引き続き進める。 ・今後予想される生徒増に対応する施設設備等の改善や生徒募集の在り方が課題である。
	③ 広報活動と情報発信および地域との連携	・各校において様々なメディアを通じた十分かつ効果的な広報活動を行い、認知度を高めることができたか。 ・中学校訪問を適切に実施し、成果を上げることができたか。 ・本校や各サテライト校で地域連携を積極的に進め、地域に開かれた学校を目指す。	・新設校として新聞報道やタウン誌等へ積極的に取り上げられ成果を上げた。 ・学校HPのブログは定期的な更新により学校の内容を伝えることができた。 ・地区の中学校へは複数回訪問し認知度をあげられたが、地域には十分とは言えない。 ・コロナ禍のため地域連携の活動はできなかった。 ・一部生徒がSNS等で不登校の人へ拡散するなどの広報をしている。	B	・引き続き広報活動を進めていき、中学と高校および地域への認知度を高めていく。 ・HP、ブログを活用した情報発信をすすめるとともに、屋外掲示板利用など広報活動を工夫する。 ・転学生への対応のため中学校訪問に加えて高校への訪問を進める。 ・在校生を大切にすることで、生徒達のSNS発信も考慮する。